

自立心を育む体験プログラム

「奥能登から飛騨！～塩の道をたどる旅～」

1 趣旨

飛騨の森と能登の海は遠く離れているが、塩を通してつながっている。能登の海で製塩した塩を飛騨まで運んでおり「塩の道」や「ぶり街道」として現在も受け継がれている。能登から乗鞍へ塩の道をたどる旅を通して、地理や歴史を学ぶと共に5泊6日の宿泊体験を通して自立心を育む体験をする。

2 ねらい

- ・ 集団宿泊体験を通して自立心や協調性を養う。
- ・ 塩の道をたどり見学・体験活動を行うことで、能登・飛騨地方の歴史や文化を学ぶ。

3 日程

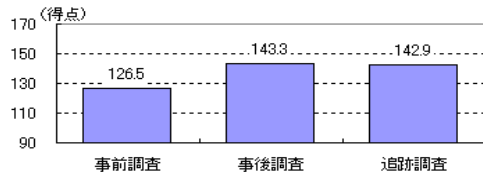
- (1) 期日 平成23年7月31日(日)～8月5日(金) 【5泊6日】
- (2) 参加者 小学校5,6年生32名(石川県16名、岐阜県14名、長野県2名)
- (3) 研修内容及び講師

7月31日 (日)	午後	○開講式・入所式 アイスブレイク 指導：能登青少年交流の家職員 ○実習「スノーケリング・海中散歩」 指導：アクアマリンインストラクター ○学習会・交流会 指導：能登青少年交流の家職員・ボランティアスタッフ
8月1日 (月)	午前	・石川県珠洲市塩田村へ移動 ○見学 輪島市千枚田
	午後	○実習「製塩体験 揚浜式塩作り」 指導：すず塩田村職員 ○実習「自然体験活動の技術：野外炊飯」 指導：能登青少年交流の家職員 ○実習 はがき作成 指導：能登青少年交流の家職員
8月2日 (火)	午前	○実習「地引き網体験」 指導：浜田岩治氏 ○実習「野外炊飯 魚の調理」 指導：高木正寿氏 ・能登青少年交流の家を出発 岐阜県高山市乗鞍青少年交流の家へ移動
	午後	○見学「藤ノ木遺跡」 講師：乗鞍青少年交流の家職員 ○学習会
8月3日 (水)	午前	・乗鞍バスターミナルへ移動 ○実習「乗鞍剣が峰登山」 講師：田中正志氏
	午後	○実習「乗鞍剣が峰登山」 講師：田中正志氏 ○実習 はがき作成 指導：乗鞍青少年交流の家職員
8月4日 (木)	午前	○講義・演習「塩の道・能登式製塩土器について」 講師：押井正行氏 ○実習「野外炊飯 カレーライス」 講師：乗鞍青少年交流の家職員
	午後	○実習「キャンドルセレモニー」 講師：乗鞍青少年交流の家職員
8月5日 (金)	午前	○閉講式・退所式 ・乗鞍青少年交流の家を出発 石川県金沢市へ移動
		・JR金沢駅着 解散

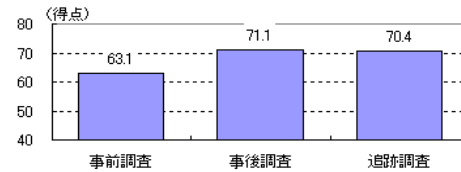
4 成果と課題

(1) 教育的効果の検証

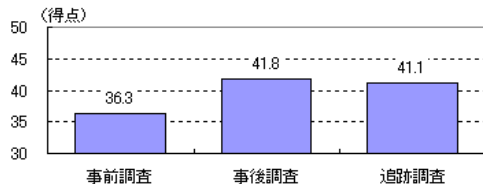
この体験活動における教育効果を図るために I K R 評定用紙を使い、アンケート調査を実施した。その結果を反復測定による一元配置分散分析法で「生きる力」について心理的社会的能力・徳育的能力・身体的能力の3つの項目に分けて調査し、統計学的に分析を行った。その結果、事前一事後調査・事前一追跡調査において「心理的社会的能力」「徳育的能力」「身体的能力」の全ての項目において、その向上に有意差が見られた。総合的な結果として「生きる力」の変容を見ることができた。



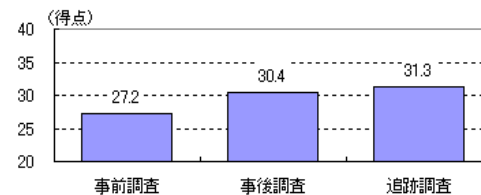
グラフ1 「生きる力」の平均値の推移



グラフ2 「心理的社会的能力」の平均値の推移



グラフ3 「徳育的能力」の平均値の推移



グラフ4 「身体的能力」の平均値の推移

(2) 成果と課題

《成果》

- ・ アンケートによる事業評価からも明らかのように、「生きる力」に関しては事前一事後、事前一追跡と有意に変容が見られた。児童期における体験活動の重要性を示唆する結果となった。
- ・ 事業を通して、漁師や調理師・講師やボランティア等の様々な大人からの指導や体験活動があったことで、既習の知識と新規の知識を関連付けて、横断的な視野で考える機会を得ることができた。

《課題》

- ・ 野外活動が多いため、活動中の怪我が幾つかあった。今回は大きな怪我ではなく、すぐにスタッフが対応して大事には至らなかったが、万一に備えた準備をしておく必要がある。
- ・ 仲間同士でうまくコミュニケーションがとれず、けんかになったり仲間割れが起きたりする場面があった。職員は、様子を観察し必要に応じて話しかけ悩みを聞くなどの配慮が必要である。



実習 『スノーケリング 海中散歩』



実習 『製塩体験 揚浜式塩作り』